

紅毛の二



発行日 昭和四十六年十一月三十日

歌集 こども紅 ポトナム叢書 第一〇〇編

定価 一二〇〇円 送料 一四〇円

著者 額田島一二郎 尼崎市東七ツ松一丁目

三一二七 **T六六〇**

発行者 こども紅刊行会 担当者 小島清

印刷者 西村勝善 製本者 村口駒吉

発行所 初音書房 京都市東山区三条通白

川橋東入五丁目

©一九七二
N.D.C. 九二一

穎田島二郎

心之毛紅

装幀
題簽

妹尾 正彦

編集

小島 清

解説

国崎 望久太郎

歌集

こ
こ
も
紅くれなる

目次

海も山もある

からだあふり逃げゆく蜥蜴
舗装路の端まで遠し海も山
もある
I

12

片眼の貴美子

測定器に目玉あちこち動か
せて視野試さるる片眼の貴
美子
佐野貴美子

30

何かの記念日

花咲くはかならず何かの記
念日にて百日紅の白きまた
咲く
I

48

今日の幕切れ

昏れおちて着く駅近し野を
遠く今日の幕切れの鬼火が
ともる
足摺行

56

神の森

神の森に雨避けしより森つ
つみ罪を赦さぬ雨の搏ち森
う
神の森

116

花はうるさし

枕もとの花なき花瓶すがすがし
死に近く病めば花はうるさ
S字状結腸ポリリーブ

142

こ
こ
も
紅

いとけなき木瓜が咲くよと
行く山の枯草の中こもく
れなる
蓼科初春

176

影
は
誰

窈窕見せず癖に沿ひくる影は
誰しばらく己を忘れて見は
る
I

216

解
説

△挿入四ページ▽

237

海も山もある

I

からだあふり逃げゆく
蜥蜴舗装路の端まで遠
し海も山もある

ノックしてママのあけるまで待つてゐる
のアパートの幼き住人
前

雨の中のアパート 廊下に揺れやまぬ木馬少
年のひとりの遊び

アパートにママ呼ぶ声のいとけなく雨の日は
雨のしめやかさもつ

建てつぎて家に迫れるアパートの谷間をもち
てかかる三日月

朝早き公園に幼な一人をり遊ぶ相手なきは遊
びやうなく

澄み極み鈴虫鳴けば家に満ち幾千となき鈴虫
のこゑ

鈴虫の鳴くに思へば一生の平安といふも微か
なりけり

鳴き死にに終る命のつひのこゑ曉もつぎてや
めぬ鈴虫

蝙蝠のとみに少くなりたるをひとり言ひつつ
何せむひとり

おのづから季移りつつ野の鳥のひそと来遊ぶ
庭をわが持つ